

学術出版物及び学会発表の目録

1. 学術出版物

A. 著書

氏名	専攻	書名	単著 共著	発行所名	概要 分担執筆の章等名、分担題名、開始頁 - 終了頁	発行 年月
藤澤 良知	学長	新公衆栄養学	共著	第一出版	公衆栄養の概念・発展過程、公衆栄養活動の歴史、保健、医療、福祉、介護システムと公衆栄養活動糖5ページ担当	2006年 4月
駒林 隆夫	健康栄養	栄養・健康ハンドブック (第10版)	共著	同文書院	栄養・健康指導に必要なデータとして18章に分類して最新の統計資料等をまとめるとともに、指導のポイント等記述。	2006年 4月
永島 伸浩	健康栄養	体力とはなにか—運動処方 のその前に—	共著	ナッ プ	第3章体力を支える, サプリメントとパフォーマンス, p142	2007年 3月
飯島 賢志	健康栄養	平成19年度版管理栄養士 国家試験問題と解答	共著	第一出版	国家試験のガイドライン、食べ物と健康の中の調理学分野 について、問題の対策と傾向、問題の解説をおこなう。	2006年 11月
河井 英子	健康 スポーツ	現代社会学のアジェンダ	共著	学文社	4章「自由競争を志向することに関わる社会階層的要因の 構造」	2006年 4月
太田あや子	健康 スポーツ	テキスト社会学	共著	学文社	15章「社会調査」	2007年 3月
河井 英子	健康 スポーツ	場面緘黙児への支援 —学校で話せない子を助け るために—	共著	田研出版	Angela. E. McHolm著 “Helping Your Child With Selective Mutism” の監訳 支援チームを結成し、会話力の階段に したがって具体的な支援を行う方法について書かれている。	2007年 7月
太田あや子	健康 スポーツ	体力とはなにか—運動処方 のその前に—	共著	ナッ プ	大学の一般体育理論系教科書として執筆 第2章 体力を みる 7. 大学生の体力 p.50-58	2007年 3月

B. 学術論文

氏名	専攻	論文題名	掲載誌名 掲載巻号頁	概要 全共同研究者名	発表 年月
駒林 隆夫	健康栄養	ANP content in rat myocardium during and after swimming	Adv. Exerc. Sports Physiol. 12(4), 121-125	遊泳中および遊泳後のラット心筋におけるANP含量について検討した。 Suda K., J. Kato, M. Nozawa, T. Komabayashi, H. Imai, S. Era	2006年
		魚類チアミンナーゼの多様性に関する研究：コイチアミンナーゼIの多様性	ビタミン 81(3), 95-100	コイの肝臓チアミンナーゼIは等電点の異なる3種以上のアイソザイムからなることを見出した。 渡辺喜弘、岡崎英規、西宗高弘	2007年 3月
西宗 高弘	健康栄養	地域住民の集団検診における運動指導方法論のコミュニティ開発—食事・運動指導の方法論を学生教育に導入する事を目指して—	武蔵丘短期大学紀要 14, 19-35	2001-2003に、高等教育研究改革推進経費を受けて、好評の内に実施した吉見町住民の健康増進教室の実践報告。	2007年 3月
飯島 賢志	健康栄養	不安定雇用経験と就業観、転職の関係	東京大学社会科学研究所リサーチペーパー シリーズ No.36	パート、アルバイト、派遣、契約職員・嘱託という雇用形態を不安定雇用と呼び、この不安定雇用経験が当人の就業観にどのような影響をあたえ、また転職行動とどのように結びついているのか、を探った論文。不安定雇用とやや縁遠かった大卒正規雇用者と転職の関係について分析を試みている。	2007年 3月
菊池せつ子	健康スポーツ	レイモンド・カーヴァーの晩年の詩集『水と水とが出会う』と『ウルトラマリン』—	英米文学評論 Winter, 2006, 117-132	レイモンド・カーヴァーの晩年の詩集『水と水とが出会うところ』と『ウルトラマリン』に焦点を当て、「精神の不毛性」「カーヴァーの詩作スタイル」「屈辱・苦痛の想起」について考察。 菊池せつ子	2006年 12月
		オスカー・ワイルドの「風習喜劇」論考(2)—『まじめが肝心』について—	武蔵丘短期大学紀要 14, 1~11	オスカー・ワイルドの「風習喜劇」の中で最高傑作と称される「まじめが肝心」に焦点を当て、「虚構の連鎖」「パンペリズム」「ヴィクトリア風ゴゴン」について考察・論考。 菊池せつ子	2007年 3月

氏名	専攻	論文題名	掲載誌名 掲載巻号頁	概要 全共同研究者名	発表 年月
太田あや子	健康 スポーツ	コーチと選手の性的関係における適切さの境界を定める試み—コーチたちの声— (ジョイ・D・ブリンジャー、セリア・H・ブラッケンリッジ、リン・H・ジョーンズ著 ：翻訳)	スポーツとジェンダー 研究 5, 106-120.	英国における水泳選手とコーチとの性的関係のあり方について のコーチへの集団および個別面接調査結果の翻訳 山中摩耶、熊安貴美江	2007年 3月
倉上 洋行	特別事業 推進室	日本史で重要な吉見町周辺ゆかりの人物と史跡・文化財	武蔵丘短期大学紀要 14, 37-43	地域活性化のための観光政策を視野に入れて、日本史における重要な転機と関連する吉見町周辺ゆかりの人物と史跡・文化財について考察した。	2007年 3月

C. その他

氏名	専攻	書名	単著 共著	発行所名 掲載誌名	概要 分担執筆の章等名、分担題名、開始頁—終了頁	発行 年月
		学校給食（平成18年度月刊誌連載分12回）	単著	全国学校給食協会発行 「学校給食」	18年4月—子どもの心を育てる学校給食日指して。5月—ご存知ですか内臓脂肪症候群。6月—妊産婦のための食生活指針。7月—食を通じて地域の教育力を高めよう。8月—明らかにされたメタボリックシンドローム。9月—求められるエネルギー、脂肪、食塩、野菜の適正摂取。10月—食の安全・地産地消の推進。11月—学校給食を通じた食育の推進。12月—学校給食と欠食問題。19年1月—生活習慣病予防に占める食と運動の大切さ。2月—循環型社会に向けて食べ物を大切にすする心を。3月—学校給食における食育活動。	2006年 4月～ 2007年 3月
		小児期からの食教育環境の重要性	共著	医学書院	飽食時代の食生活のひずみ、食育基本法と学校・保育所給食、心を育てる食育、食の自己管理能力、生活体験と道徳観等。	2006年 5月
藤澤 良知	学長	子育て支援と食育(子育て支援のための食・運動・睡眠・安全に関する研究)	共著	財団法人こども未来財団発行「子どもの栄養」	平成16年度に財団の研究費を得て、保育園児1200人の食、運動等の調査研究した結果の要約と食育推進策。	2006年 5月
		食育基本法に基づく食育推進基本計画—平成22年度に向けた改善目標	共著	全国学校給食協会発行 「学校給食」	食育推進基本計画では、学校給食や栄養教諭の役目が重要視されている。具体的な対応策と課題について記述。	2006年 6月
		明らかにされたメタボリックシンドローム	共著	(社)全国菓子総合センター	国民健康・栄養調査とは、栄養素摂取状況、食品摂取状況、メタボリックシンドロームの有病者・予備軍、不健康な生活習慣等。	2006年 7月
		肥満を防ぐ食べ方	共著	全国学校給食協会発行 「学校給食」	学齢児を中心に予防の決めてとなる、健康的な食習慣の育成と、成長曲線のグラフによる評価法等について記述。	2006年 11月

氏名	専攻	書名	単著 共著	発行所名 掲載誌名	概要 分担執筆の章等名、分担題名、開始頁—終了頁	発行 年月
藤澤 良知	学長	期待される保育における食育基本法の理念の実現を指して	単著	財団法人こども未来財団発行「子どもの栄養」	食育基本法と保育所給食、食育推進基本計画と保育所の役割、幼児の欠食、保育に占める食育の大切さ等記述。	2007年 1月
河井 英子	健康 スポーツ	保育所食育実践集Ⅱ 子どもが相談事をするお母さん、しないお母さん	共著	社会福祉法人 日本保育協会 PHP研究所	食育の時代に、子どもの心と体を育てる食育、平成17年度乳幼児栄養調査結果、生活リズムの乱れ、保育に占める食育の大切さ等。 別冊PHP 36頁—39頁 子どもが心を閉ざす3つの理由を挙げ、親としては子どもとの世界に近づく努力を勧めている。	2007年 3月 2007年 3月

2. 学会発表

氏名	専攻	発表論文題名	発表学会名 要旨の掲載巻号頁	概要 全共同研究者名	発表年月
駒林 隆夫	健康栄養	DOCA-salt高血圧ラットにおけるANP作用におよぼす運動トレニニングとカaptopプリルの影響	第83回日本生理学会	高血圧ラットのANPレベルにおよぼす運動トレニニングとカaptopプリルの影響について検討した。加藤隼人、駒林隆夫、須田和裕	2006年 3月
永島 伸浩	健康栄養	キヌアを添加した製パンの特性について	日本調理科学会 平成18年度研究発表 要旨p45	穀類のうち、新食料資源として注目されているキヌアについて調理への応用として、パン生地を調製し、食味特性などを検討した。大迫早苗、永島信浩	2006年 9月
小河原佳子	健康栄養	女子学生の脂肪分布状況について一隠れ肥満を中心に	日本栄養食糧学会	女子学生の肥満状況と脂肪分布状況について隠れ肥満を中心に検討した。徳野裕子、長澤伸恵、佐藤文代	2007年 5月
飯島 賢志	健康スポーツ	栄養士養成校に通う学生の献立作成の現状(9)	日本栄養改善学会	学生は日測はできず、日測量は摂食量に関連していた。宮田房夫、倉田澄子	2007年 9月
太田あや子	健康スポーツ	競争社会格差容認志向の規定因探索の一步 学生による生涯スポーツ指導者のためのインスタンション 実践満足度評価 Chinese-Japanese Cooperative study on living condition of Children and youth (中国：マカオ)	日本社会学会 日本生涯スポーツ学会 第8回大会 The 2007 Conference on National Physical Fitness	所得、資産などをものさしとして、上の層を勝ち組、下の層を負け組と呼ぶ言説があるが、いわゆる負け組になる可能性が高いと思われる社会層に属していても、自分を負け組に追い込む競争社会に肯定的であるのはなぜかについて、その規定因について探求した。 スポーツインスタンションに参加する学生の実習授業評価と実習の満足度との関係にていて検討した。p.8.	2006年 10月 2007年 7月

氏名	専攻	発表論文題名	発表学会名 要旨の掲載巻号頁	概要 全共同研究者名	発表年月
太田あや子	健康スポーツ	「参加型」スポーツモデルの構築—団塊の世代に着目して—	日本体育学会第58回大会	地域サッカー大会に毎年参加するサッカー愛好者を対象とした調査から団塊の世代の特徴を検討し、会場に長時間停留する要因を検討した。p.240.	2007年 9月
星川 秀利	健康スポーツ	The effect of foot position on pedal surface on ankle, knee, and hip joint moments for triathletes ペダリング時の足の位置が足・膝・股関節モーメントに及ぼす影響	European College of sport science Annual Congress 第19回日本バイオメカニクス学会大会	ペダリング運動中の足の位置が、トライアスロン選手の足・膝・股関節の関節モーメントに及ぼす影響を検討した。Hoshikawa, H., K. Takahashi, K. Ohashi, K. Tamaki	2006年 7月
倉上 洋行	特別事業 推進室	“気育て体操”によるストレス低減効果について	日本健康科学学会 第23回学術大会（於東京医科歯科大学） 抄録集、p316	“気育て体操”の前後に、客観的なストレス指標である、唾液中「 α アマミラーゼ活性」を情報通信会社社員40人を対象に非侵襲で測定したところ、ストレス低減効果が確認できた。同体操は朝礼時に実施することで、事故率が低下している。（共同研究者：中村紀典、共同研究者：渡辺康磨、中村達也）	2007年 11月